

令和 5 年度

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(月光)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100774		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ盛岡本宮グループホーム(月光)		
所在地	〒020-0866 盛岡市本宮6丁目6-10		
自己評価作成日	令和6年1月15日	評価結果市町村受理日	令和6年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月光ユニットは認知症状が強い方が多く、開設1年目はお客様への活動の提供がほとんどできていない現状にありました。2年目からはイベントの実施、創作活動や散歩などを中心としたレク活動の提供などを行うことができました。以前は殺風景だったホール内も装飾品で綺麗に彩られるようになってきました。お客様の「できない部分」だけに注目するのではなく、小さなことでも「できること」を活かして頂けるように支援を行っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、ショッピングモール、福祉・介護事業所、医療機関などがある盛岡盛南エリアの閑静な住宅街に位置している。令和4年7月開設以来、職員一丸となり「私らしい今を、ともに輝ける明日へ」の理念のもと、日常生活の中で利用者それぞれが持てる力を発揮できるように支援している。また、職員の発案により、季節に応じた装飾の工夫、レクリエーション、イベントの企画等、利用者の日常生活に潤いが持てるよう工夫している。さらに、他福祉関連事業所の介護支援専門員に来訪してもらい、利用者1対1で交流できる機会を設け好評を得る等、周囲の関連事業所との連携等に積極的に取り組んでいる。今後は、災害時の協力体制の確立に向けて検討することとしている。各居室のベッドマットレスの下にはセンサーを設置し、利用者の状況をモバイル端末でリアルタイムに観察できるシステムを活用し、体調の急変や事故を未然に防ぐ等の対策をとっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和6年1月30日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(月光)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所当初からいた職員に関しては理念と一緒に考えるところから携わったので、理念を聞かれても答えられる職員が多いが、開所から1年半が経ち、職員も入れ替わったりした為、改めて理念の共有が必要と考える。	開設当初職員で話し合いを重ねて作製した「私らしい今を、ともに輝く明日へ。」との理念を、玄関・ホール・面接室に掲示している。日常生活の中で利用者が役割を持つことにより、理念の「私らしい今」を実現できるよう日常のケアを行っている。そのため、日々の介護が理念にどう繋がるかを意識しながら職員一人一人が目標を定め、管理者と職員とが定期的に面談を行い、随時目標の見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	8月、民謡や踊りをされている方をお迎えし、お客様の前で歌と踊り、演奏などを披露して頂く。10月、本宮地区活動センターで行われたお祭りにお客様をお連れする。11月、そば打ち職人の方に来所頂き、お客様の前でそば打ちを披露して頂く。12月は焼き芋の屋台をされている方をお迎えし、お客様と一緒に出来立ての焼き芋を購入する。地域の方に協力頂き、イベントの実施をすることができた。	自治会に加入し事業所の概要を「ツクイたより」として発行し回覧して貰っている。事業所には民謡や踊りのグループやそば打ち職人の実演、焼き芋屋台の来訪等に加え地元活動センター祭りの見学等で、利用者の日常生活に変化と潤いを与えている。また、事業所周辺の散歩の途中で近隣住民と挨拶を交わすなどして、地域とのつきあいを積極的に行っている。今後は、近隣福祉施設等との日頃の交流や災害時の協力体制の検討等を前向きに取り組むこととしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居者様と近隣の散歩に行き清掃活動をしている。また地域包括の会議に伴い近隣の住民の方が交流スペースを利用して語らう時間を設ける活動も今年初めて取り組んだ。その他入居相談にいらした時に単なるご入居ではなく在宅サービスを紹介するなどご家族様へのアドバイスを伝えている(輝も同様)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度開催している。その中で話し合った内容を次月の請求書と共にご家族様に開示。職員にも内容を確認してもらった上でユニットリーダーに伝達。改善に活かしている(輝も同様)	今年度は対面方式により、市担当課、地域包括支援センター、民生児童委員、家族等の出席のもと、2か月毎に開催している。会議では、日頃の利用者の状況や火災避難訓練の際の地元消防団への声かけやボランティアの受け入れ等の提案をもとに、意見交換が行われている。会議内容に返信用封筒・様式を添えて全家族に送付し意見・要望をいただいている。なお、遠距離在住の家族もいる中で、家族の出席のあり方について今後検討することとしている。	

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(月光)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加していただいている。また運営に関して不明点がある場合にはその都度問い合わせをして回答をいただく様になっている(輝も同様)	担当課職員が運営推進会議にも毎回出席し、運営に関する提案をいただくなど、良好な関係にある。また運営推進会議の報告書は市担当課内で回覧されているとのことであり、事業所運営について随時相談し助言を得ることのできる関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を年二回実施して内容を理解する努力をしている。また身体拘束廃止いわて宣言の資料も活用している。	「身体拘束廃止いわて宣言」をもとに、日頃から身体拘束をしないケアに取り組んでいる。該当する事例が発生した場合には、背景や今後の対応等について意見交換を行っている。委員会での検討内容を職員間で情報共有をするとともに、各種資料をもとに研修も行っている。また、居室のベッドマットレス下にセンサーを設置し、利用者の状況をモバイル端末でリアルタイムに確認できるシステムを導入している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員が各自研修を受講している。また、ミーティング内で接遇に関して改めて考える時間を設け、日頃の言葉づかいや介助方法の振り返り、一日の流れの改善などを図っている。介助方法に関してはリハパン・オムツ使用について再検討を行った。尿汚染が多いからと過剰にオムツを使用していないか、こまめにトイレ誘導を行うようにしてはどうかなど。6月に不適切なケアが発生してしまい、行政に報告するのはもちろん、運営推進会議で報告後、ご入居されているご家族様にも同様の文章を送付。所内でも繰り返し話題とし絶対してはいけないという意識を持ってもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の方への定期的な連絡、書面での状況報告を行っている。また、時々面会にも来て頂いている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(月光)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけて納得していただけるように心がけている。また必ずご入居されるユニット内を見学してもらい疑問点がないか確認している。入居の継続が難しくご退去の事案が発生しそうな方には時間を設けて説明をするようにしている(輝も同様)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で集約した意見をユニットリーダーへ伝達をしてユニット内で理解を深めていたり、タブレット端末での記録を通して共有し理解を深めている。(輝も同様)	月1回家族あてにA4判用紙に「利用者の食事、排泄、清潔、健康状況、受診した場合はその結果」等を記載したものと、イベントの様子を掲載したカラー写真入りのツクイだよりを送付している。また、2か月に1回開催している運営推進会議の検討内容も報告しており、その際、返信用封筒と様式も添えて、家族から運営に関する意見もいただき、いただいた内容について事業所内で検討し、日頃のケアに活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットリーダーに意見集約をお願いしている。また、面談でも直接意見を聞くようにしている。(輝も同様)	ユニット会議、リーダー会議、管理者との2か月に1回の個人面談等で提案された意見要望が運営に反映されるようにしている。職員はデイサービス経験者が多く、その経験が日々のレクリエーションやイベントに具体的に活かされている。また個別面談では目標管理シートを用い、課題等について確認を行い、次回面談までの目標を設定する等、PDCAサイクルに沿った対応を進めている。なお、研修や資格取得も促している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を実施している。社員は目標管理シートの入力して自分の取り組みが振り返れる様にしている。またパート職員には役割をもっといただけるようにしている。状況の確認はユニットリーダーや管理者も相談に乗るようにして無理なく進められるようにフォローしている(輝も同様)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法定研修の受講の促し、参考等なる資料があればユニット会議等で共有できるようにリーダー経由で職員に渡す様にしている。また認知症実践者研修への参加の促しや外部の研修にも参加できるように働きかけている(輝も同様)		

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(月光)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	苦情解決情報交換会や包括が実施する研修、またツクイ東北圏GHで実施している意見交換会など参加できるようにシフト組をしている。(輝も同様)		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様のお話をよく聞き、ご自宅での様子等今までの状況を確認してスタッフ間で情報を共有するように努めて対応するようにしている。そして好きな食べ物や趣味など話を合わせ不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居して全てが解決するわけでは無くご入居に際して、見放してしまうように感じられる家族様もいるので専門家として頼って欲しい旨を発信し、必要に応じてアドバイスをしご家族様の気持ちに寄り添うようにしている。見学に二度三度訪問されるご家族様もいるのでその都度、丁寧な説明を心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	極力申し込み時見学にきていただいている。そして何に困っているか、どういう生活を本人にしてみらいたいか?など聞き出す。計画作成担当か管理者が対応できる日程とし時間をかけるようにしている。在宅サービスが説明できるよう系列のケアマネにも協力してもらっている(輝も同様)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理に関しては職員が中心に行うことが多いが、後片付け(主に食器拭き)に関してはお客様を交えて行っている。食器棚へ写真をはり簡単なサポートで片付けが出来るような仕組み作りをしている。 その他、床掃除や洗濯物たたみなど、できる方にはお手伝いを頂いている。		

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(月光)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回お客様の様子を書面にて報告させて頂く他、お客様に何か変化がある場合など電話にてご報告・ご相談をしている。また、一時帰宅をしたり、ドライブに連れて行って頂いたり、ご家族様にも協力頂きながら、本人様の思いを尊重できるように努めている。ご家族様も行事に参加していただけるように働きかけしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様やご友人の方が面会に来られることも多い。面会を行うことで帰宅願望や感情失禁に繋がることもあるが、出来る限り見知った方との関係は途切れないように支援している。	家族や友人等、コロナ禍以降面会を受け入れており、これまでの関係性を継続できるよう支援している。また、3カ所の医療機関医師による訪問診療、週1、2回の訪問看護ステーションの訪問看護師、さらに訪問薬剤師、2カ月に1回の訪問理容等は利用者にとって馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	口論が始まる等、お客様同士のトラブルがある場合は一度席を離すこともある。居室にこもりがちな方に対してはホールに出て他の方と交流して頂けるように声掛けをするよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご入院が継続しご退去の方向となっても限りなくご相談いただけるようご家族様には声掛けをしている。次の行き先についても困る事が無い様に関係機関と連携をしている。ご逝去の場合は当方の対応について感想をうかがうなどして寄り添う事を心掛けている(輝も同様)		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「外に行きたい」とお話されるお客様が多く、真夏・真冬を除いてではあるが散歩の時間を設けている。お客様の要望になるべく寄り添うよう心掛けている。	利用者のこれまでの生活歴や事業所内での生活の状況から、その人の人となりを捉えるとともに、日頃の何気ない言動からその人の望んでいることを汲み取るようにしている。また、排泄の失敗やトイレ誘導の際には、さりげない声かけや誘導を心がけている。さらに、職員の利用者への声かけで気になることがある場合には、職員相互に注意喚起するとともに、ミーティング等で対応の仕方を確認している。	
----	-----	--	---	--	--

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(月光)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にアセスメントを行い生活歴を事前に把握するとともに、お客様との会話を通してお客様自身のことを知っていけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	SCOPや口頭での申し送りにてお客様の現時点での状態の把握、情報共有は行えている。1日の流れに関しては職員主導で組んでいる部分を少しずつお客様主導のものに移行していけるよう検討中。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ユニット内でのミーティングを実施しており、お客様のケアの見直しに繋げている。	利用開始当初にこれまでの状況を把握した上で暫定プランを作成し、その後利用者の日常生活の状況等のモニタリングを行い、3か月毎に見直しを行って。理念に基づいたその人なりの「役割」も念頭に、介護計画を作成している。協力医の意見、訪問看護師の助言も随時確認し、介護計画に盛り込んでいる。家族にも送付して内容を確認していただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	SCOPや口頭での申し送りに加え、2年目からはノートを活用し、情報共有を行ってきた。SCOPでの入力のみかた(言葉選び、事実のみ入力するなど)も見直しを行い、円滑な情報共有に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ドライブや買い物など出かけたいとお話あればご家族様に連絡をとって出かけたり、近隣であればスタッフと一緒に外出して買い物をするなど対応している。 また、協力医の往診もあるが外部のドクターにかかりたいとお話があれば、協力医とともに情報を伝えご家族様に負担がかからないように配慮している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(月光)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんや地域広報から情報を得て、地域での作品展示会や行事への参加。必要に応じて地域包括アドバイスをいただきながら対応している。また、地域包括や地域の居宅介護支援事業所のケアマネージャーを招き認知症について考えることを趣旨にお客様との行事を開催した。(輝も同様)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	3か所の病院に提携頂き、お客様の病状などに合わせた医療の提供を行っている。往診の際は事前にメモを作成し、職員が誰であってもお客様のことについて回答できるように工夫している。小坂内科5名、真山池田医院2名、かつら内科1名、現在入院中一名。外部の病院を継続したいという時にはそれに応じて情報提供をしている	利用契約時に意向を確認し、現在は利用者全員が事業所の協力医を主治医としている。3か所の協力医による訪問診療、訪問看護ステーションの看護師の訪問、さらに処方された薬は薬剤師が直接来訪し具体的な助言を得ている。受診結果については家族に送付している。また人工透析が必要な利用者については、介護タクシーにより医療機関を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師に訪問して頂くとともに、急な体調変化や服薬に関する相談などがある場合は都度連絡を行っている。必要時は看護師から主治医に相談して頂くなど、相談ルートを明確にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医、入院先の病院、家族と綿密に情報共有を行い、関係づくりに貢献できている。医療相談室とは特に小まめなやり取りを心掛けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での看取りを希望されるか、緊急時の連絡体制をどうするか、施設で対応ができる範囲の説明など、家族様や主治医を交えて検討を行っている。昨年看取り1名	利用契約時に「重症化した時の指針」「看取りの指針」をもとに、利用者と家族に説明の上、「意思確認書」を提出していただいている。その後の状態変化や食事摂取状況等から看取りを考える時期になった際には、家族に再度意向を確認している。家族が看取りを希望する場合には、かかりつけ医、訪問看護師からケアの指導・助言を得ながら安らかな最期を迎えることができるよう、職員一丸となって終末期ケアに取り組んでいる。月光ユニットで一人の方の看取りを行い職員の振り返りも行っている。	看取りを経験した際には振り返りを行ったとのことであり、今後も家族の思い、当日対応した職員の思い、医療機関との連携等、ケアを振り返る機会を設けることを期待します。

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(月光)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な社内研修に加えて、10月に消防署にてAED講習を実施した。参加した職員が他の職員へ伝達を行い、全体共有を行っている。また、緊急時の対応の仕方についてはフローチャートを作成し、職員の目に入る位置に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、災害時を想定した避難訓練を実施している。職員の手数が少ない夜間帯を想定した訓練を行い、非常時に備えている。	避難訓練を年2回実施。これまで火災訓練の際には、玄関から避難するユニットと、もう一方のユニットは窓から避難する訓練も行ったこともある。今年は夜間の管理者への通報訓練を行い、事業所到着までの時間を確認し課題も明確になったことから、今後の通報体制を検討することとした。消防署への相談等も積極的に行い指導助言を得ている。運営推進会議で提言された地元消防団への協力要請についても、今後検討することとしている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の言動や不規則な勤務などによりストレスを抱える職員も多く、それが言葉がけに現れている場面も見受けられる。職員同士で声掛けし合ったり、ミーティングにて啓発を行うことで改善していきたいと考えている。	利用者のこれまでの生活歴や事業所内の生活の状況から、その人の人となりをとらえるとともに、日頃の何気ない言動からその人の望んでいることなどを汲み取るように努めている。また、排泄の失敗やトイレ誘導の際には、さりげない声かけや誘導を心がけている。さらに、職員の利用者への声かけで気になることがある場合には、職員相互に注意喚起するとともに、ミーティング等で対応の仕方を確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主導で進めるのではなく、お客様の希望を聞きながらケアを行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側で設定した1日の流れがベースとしてあるが、開所2年目を迎えお客様のADLが大きく変化していたり、お客様各々の過ごし方が掴めるようになってきたので、今のユニットに合った1日の流れを検討していく予定である。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(月光)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には着たいものを本人様に選んで頂けるように支援をしている。過度に着込んでいたり、汚れたものを着続けている場合などはお声掛けしている。不足があれば家族様に連絡し、買い物に連れて行って頂いたり、こちらで購入したりなど対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様一人ひとりの食の好みを把握し、苦手なメニューの場合は別メニューを提供するなど臨機応変に対応している。食事の準備に関しては職員が行っているが、後片付けに関しては主に食器拭きをお客様にお願いしている。	献立は本社で作成し、食材は本社集中センターから送られている。それをもとに各ユニットで適宜食材を追加し、彩よく盛り付けている。毎月19日と29日をツクイの日とし、今年度は「空旅の日」とし全国の郷土料理を提供する等の工夫を凝らし好評である。また、利用者や家族の意向を踏まえ、寿司、パン等の希望を取り入れることもある。利用者は盛り付け、配膳、茶碗拭き、テーブル拭き等可能な範囲で積極的に手伝っている。輝ユニットでは、当番表を作成している。なお、飲み込みに問題がありそうな利用者については、他機関の言語聴覚士に依頼して飲み込み検査を実施するとともに、系列法人の栄養士とも相談し、食形態を工夫する等して個別に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み込みの状態や食べやすさに配慮した食形態で提供している。また、ご飯の量なども一人ひとり希望に即して提供している。水分量はSCOPにて記録を行い、こまめな水分摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼の口腔ケアが疎かになっている現状があったので、毎食後の口腔ケアができるよう職員間で共有を行った。促し、必要に応じて介助を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的には本人様の尿意等に合わせて介助を実施。自主的にトイレに行くことが少ない方にはお声掛けし、定時で誘導をしている。オムツ・パッド使用について、お客様ごとに再検討を行い、尿汚染が多いからと過剰にオムツを使用していないか、日中・夜間でのパッドの使い分けについて変更を行った。	排泄パターン、水分摂取量などは全て入力されている。輝ユニットでは1人の利用者が全介助であるが、それ以外の利用者は自立している。月光ユニットは、2人の利用者が自立している。自立している利用者でもなかなかトイレに行こうとしない場合には、仕草や表情、排泄パターン等から時間を見計らって声かけしている。ポータブルトイレ利用者はいない。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(月光)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便はSCOP上に記録し、水分の促しや下剤の調整などを実施している。必要あれば訪問看護に相談の上、浣腸対応をして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	あらかじめ入浴予定日は組んでいるが、お客様からの希望があれば入浴日をずらして対応している。週に2回以上は入浴実施できている。	週2回午後入浴とし、同性介助を基本としている。また、夕方の入浴を希望する利用者もいて、その利用者は、職員の見守りあるいは一部介助での入浴が可能のため希望に添って対応している。利用者にとって入浴はゆったりと過ごし、職員ともゆっくり会話することができるとともに、その人の思いを聞くことのできる貴重な時間である。さらに入浴を嫌がる人には、入浴券を作るなどの工夫もしている。時には、ゆず湯などで季節を感じられる楽しい時間となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ本人様のペースでベッドに誘導している。眠れない時は起きてテレビを見て頂いたり、ココアを提供したりなど、状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などがあればSCOP上で共有を行っている。拒否がある等で服薬できなかった場合は訪問看護に相談の上、中止する・時間をずらして飲んで頂くなど指示を頂いている。頓服薬は用法・用量に十分注意して服薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや床掃除などの家事手伝い、創作活動など、個々の能力や好きなことを活かして取り組んで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暑すぎる時期、寒すぎるまたは雪の降っている時期を除き、散歩に出かけている。また、今年はお花見や紅葉ドライブ、本宮地区交流センターでのお祭りなど、お出かけレクも実施することができた。	ゴミ出しに職員と一緒に出かけ、その際ごみ拾いを行うこともある。時には、事業所周辺と一緒に散歩したり、近隣商業施設付近へ散歩に出かける等、天候や利用者の状況に応じ臨機応変に外出の機会を設けている。また、季節ごとに花見に出かけたり、紅葉狩りに出かける等、四季の変化を感じてもらえるように計画的に実施している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(月光)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失したり他のお客様とのトラブルになる可能性を家族様にご説明した上で、お金を所持していないと不安なお客様には少額持参して頂いている。お客様同士の貸し借りなどにつながるケースもあったので、慎重に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様に色塗りや文字を書いて頂いたものを絵葉書のような形で家族様に送付した。また、家族様から頂いた手紙や年賀状なども本人様にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開所2年目からは今までより創作活動を充実させており、ホール内も季節感を意識した飾りつけができています。また、冷房や暖房などもお客様に合わせて調整を行っている。	エアコンで室温管理され、室内は落ち着いた雰囲気の色合いで統一されている。テーブル席は利用者同士の相性等を考慮し配置している。共有空間には、利用者と職員と一緒に作った季節感に溢れる作品を掲示している。また職員の提案により段ボール製の神社を作り、利用者がお参りをするなど、職員の発案による作品等が利用者から好評で日常生活に変化と潤いをもたらしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席配置に関して何度か検討を繰り返した。お客様同士の相性を考慮したり、一人で過ごすのが好きな方には少し離れた位置に座席を作る等工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様が普段から使っているもの、使い慣れたものをご持参頂いている。また、不足があれば家族様に連絡の上持ってきて頂くこともある。これまで、愛着のある人形や昔の写真、家族との思い出のものなどをご持参頂いている。	居室には、エアコン、リクライニングベッド、クローゼット、ナースコールが備え付けられ、利用者はテレビ、椅子、テーブル、家族写真等を持ち込みんでいる。また、レクリエーションで作成した装飾品を居室に飾ることもある。ベッドマットレス下にセンサーが設置され、利用者の状況をモバイル端末でリアルタイムに確認できる見守りシステムを導入している。季節の変わり目には衣類の入れ替えなどを家族も一緒に行うこともある。居室掃除は、可能な限り利用者も職員と一緒にやっている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(月光)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースは整理整頓を心掛け、お客様が使いやすい、かつ危険がないように配慮している。最近では食器棚に食器の写真を貼り、お客様自身でしまえるように工夫を行った。		